資料９

我が国のアートの経済的現状と課題

東京画廊　山本豊津

文化を国益に繋げる

我が国の文化資産であるアートを世界に紹介

現状は主として単独のギャラリーが世界のアートフェアに出店することで

世界に日本の現代美術を紹介し販売している

単独のギャラリーの出店は文化庁の支援で行われているが、まとまって出

店できる方法があれば多くの作品を紹介できる

「文化は西洋から」の時代を終え、文化を「世界へ」知らしめる時代に入る

すでに現代美術は外貨を獲得し国益にかないつつある

人材育成

すべての価値は人の育成が基本となる

個人であるアーティストの育成は文化を支える基本である

才能ある人材ほど国益をもたらすものはいない

世界の中心となる都市は才能あるアーティストが集まる場であり、多くの

才能ある人が集まれば、次代を予見させる作品が生まれる

人は作品を通して人を育てる

文化政策の立案

アート（文化）を産業化するためには、文化政策が必要不可欠であり、文化政策は各省庁と民間の複合的な機能によって推進される。それには、文化と経済を連動させる機関が求められる。美術館は国内的な役割を担っているので、国外対応の能力を有する機関でなければならない。当然税制にも関係する。

アートは情報産業であることを忘れないでほしい

アートの価値は記号的価値（イメージ）と物象的価値（身体）からなり、記号的価値がデジタル化して NFT へ、そして物象的価値が鑑賞者の知覚全体を喚起する。デジタル化された貨幣と NFT は、物象化されたアートの資産性を高め、アートの本来の役割である人と人をつなぐコミュニケーションに欠かせない存在となり、新たな産業となる。

経済社会とアート

すべての産業において AI に代替されない創造性の高い人材が求められており、世界の優秀な経営者や政治指導者などが持っている「教養」を日本のビジネスマンにも持ってもらう必要がある。その教養を養うためアートが

重要だと考える。

クリエイティブ産業に対するアート

アートフェア等を目的に来日した海外富裕層や美術関係者は、確かな審美眼や知的好奇心を持っており、他の産業まで目を向けさせるためには、彼らを納得させるナラティブが必要。

（彼らに伝わるようなナラティブを語れる産業は伝統的工芸品においても実は少ないのではないかと感じる）